

工事現場ごとの原価管理システムの構築支援

企業紹介

三島建設株式会社

- 代表者: 三島 渚
- 所在地: 下伊那郡高森町牛牧2258-1
- 従業員数: 16人
- 事業内容: 土木工事請負
- 連絡先: 0265-49-0499

支援を受けて

建設業という特殊な職種の原価管理ということもあり、今まで弊社では原価管理システムというものがありませんでした。又、どこに相談していいかも解らず今回、商工会に相談してみました。分り易くご指導頂き少しずつではございますが、管理システムが出来上がってきました。また、機会がありましたら宜しくお願い致します。



三島社長

支援概要

■企業の現状・課題及び支援の経緯

相談依頼の企業は、主に住宅基礎工事、はつり工事を請負う土木工事業者で、現社長（37歳）の父が昭和45年10月に創業し、平成27年10月に会社設立と同時に現社長が事業承継をした。

売上第1位は住宅基礎工事。主に県内大手建築ゼネコンの下請で売上げの40%を占めている。売上第2位のはつり工事は、売上の20%を占め、南信州地域の土木建設業者があまり手掛けていない工事分野であることから、競争が少ない利点があり、社長は、設備投資をし、この工事分野で新規受注を図りたいと計画している。

当社の受注工事は、受注額の大、小および工期の長期、短期が様々であり、手持ち工事は、月25～35件で年間推移している。また、ひとつの工事の中で、元請の要請により、形態が異なる契約（工事完成の請負契約または工事の労働時間、労働日数での契約）で請負わなければならないことがある。

社長は、日常現場に出ることもあり、社内でも諸務務に追われ、工事現場ごとの原価管理および経営分析に時間を割くことができない状況であり、経費の管理を含めて、受注工事のどの工事がどのくらい原価がかかり、どのくらい利益が出ているかの把握が困難な状況とのことである。

その中で、受注工事ごとの売上げに占める原価率、利益率を算出して、利益の出ている現場とそうでない現場の把握と原因の分析をおこなうために現場ごとの原価管理システムを構築したいと社長は考えている。

■実施した支援内容

- 1 原価管理の基本的考え方および原価の構成において、利益に影響をおよぼす要素について説明した。
- 2 原価管理システムの構築において、第一に、一つの現場ごとに一定の規則を持たせた固有の管理番号をつけることを提案し、社内の工事関連書類、納品書、見積書および請求書等にその番号を記載し、管理することをアドバイスした。
- 3 社長、部長および総務担当者の協議により、工事の管理項目を決め、管理表を作成、システムを構築していくことの重要性を説明した。
- 4 一つの工事において、元請から引合、見積、契約後、必ず実行予算を組み、それに対する中間時点でチェックおよび工事完了時点でのチェックを行う必要があることをアドバイスした。

支援の結果及び今後の展開等

今回の支援により、原価管理システムの構築に関し、まず第一にやらなければならないことが明確になり、社長をはじめ、担当社員で構築された現場管理システムは、現場ごとの採算性の把握および原因の分析に寄与するものとする。

支援を実施して

上席専門経営支援員 内田希一

高森町商工会
竹村敏典主任経営支援員

支援の際のヒアリングにおいて、事業を承継し、法人設立後4年目の社長の課題解決に対する意気込みを感じることができた。

社長が、課題解決には、何を、どこから、どうやって取り組んで行かなければならないのか悩んでいる中、今回の支援は、課題解決の方向性を明確にするものとなり、事業者にとって有効なものであったと考える。

